の取組
プログラム～

東京都では、平成17年度から「わく(Work)わく(Work) Week Tokyo (中学生の職場体験)」を実施しています。中学生の段階から、実際の職場で仕事を体験して働くことの意義を実感し、働くことに対する意識や社会の一員としての自覚を高めてもらうために、都内すべての公立中学校の生徒が5日間程度の職場体験に参加することを目指すものです。地域教育推進ネットワーク東京都協議会は民間企業等と連携して平成17年度から平成19年度にかけて、経済産業省の「地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト」(※参照)の一環として“job job”プログラムに取り組んできました。

“job job”のコーディネーターを紹介します！

“job job”の取組には都内の公立中学校7校（平成19年度）が参加し、いずれの学校の関係者や地域の方々からも高い評価をいただくことができました。その裏には、企業関係者や民間のライター、編集者、印刷会社との打ち合わせ、学校の担当の先生との打ち合わせなどを何度も行い、プロジェクト全体を支えてくれた「コーディネーター」の存在がありました。本プロジェクトのコーディネーターを務めた株式会社ソシオエンジン・アソシエイツ（以下、「ソシオエンジン・アソシエイツ」という。）の安井綾子さんと中野里美さんにお話を伺いました。

「締切前に見せる生徒たちの自覚と責任感に圧倒されました」と安井さん

Q. “job job”に取り組んで、良かったと思うことは?

A.「親や先生以外の大人たちと関わっているときの活き活きとした中学生の姿を見たことです。“job job”の作成場面では、中学生たちが編集者、デザイナーたちといいものをつくるために真剣なやりとりを行っています。それを先生が見て、生徒たちの新たな面を発見する。その繰り返しが教育を活性化させるのではないでしょうか。

Q. 企業や学校とのやりとりで、この3年間で変わったなと感じることは?

A. キャリア教育という用語が浸透してきたな、という感じがします。3年前は学校に説明に行っても、なかなか理解が得られませんでした。企業の側もCSR（企業の社会的責任）という観点から、子供たちへの教育支援にずいぶん関心を寄せるようになってきたのではないかと思います。

「先生たちがもっと社会の人たちから認めてもらえるようにしたい」と中野さん

平成19年度に“job job”の製作に取り組んだ中学校名：渋谷区立鉢山中学校、世田谷区立砧中学校、世田谷区立東深沢中学校、杉並区立大宮中学校、杉並区立天沼中学校、北区立赤羽中学校、荒川区立第四中学校

都内にキャリア教育支援ネットワークを広げよう！
～「東京job job」の発行を目指して

経済産業省のプロジェクトは、平成19年度に終了してしまいましたが、3年間にわたる“job job”の成果をさらに都内全域の中学校に広げていくことを目指し、「民間コーディネーター」たちは新たな取組をはじめようとしています。“job job”の取組を今後どのように発展させていくのかについて、ソシオエンジン・アソシエイツ副代表の服部直子さんにお話を伺いました。

Q. 3年間にわたる“job job”の取組を振り返ってみて、どのようなことをお感じになられていますか?

A.「自分としては、一人の人間として次世代を担う子供たちをいかにして育てていくか、という問題意識をもってキャリア教育に取り組んできました。それを通じて改めて認識したことは、『仕事を考える』ことは、『生きることそのものである』ということでした。どのような職業に就くかがキャリア教育の目的ではなく、どのような職業に就きたいかを考えていくプロセスの中で、中学生たちが自分自身の価値観を発見することの大切さを痛感しました。」

Q. 今後“job job”の取組をどのように発展させていこうとお考えですか?

A.「キャリア教育を通じて中学生が考えていることを、大人たち特に、学校の先生や保護者のみなさん方の間で課題共有を図りたいと考えています。それを実現する場として、今年9月末を目途に『東京job job』の編集・発行に取り組み始めています。この『東京job job』を発行するにあたっては、この媒体の趣旨にご賛同いただいていた企業の方の支援を受けています。今後も、私たちが民間コーディネーターとして、企業、NPOと教育界の橋渡し役を務めていきたい、と考えています。」

地域教育推進ネットワーク東京都協議会の取組については、**http://www.syougai.metro.tokyo.jp/sesaku/schooling.html**‥‥まで